

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281031 |
| プロジェクト番号 | S1312008 |

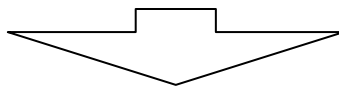
| | 授 | 構築 | |
|-----------|-----------|----------------|------------------|
| 杉山育代 | 医療検査学科・講師 | 移動型検査の安定化 | 訪問先での検査の実施 |
| 高松邦彦 | 医療検査学科・講師 | 情報管理の相互利用開発 | コンピューターを用いた情報管理 |
| 谷口由佳 | 看護学科・講師 | 看護実践における教育方法 | 災害教育・地域での予防活動の実践 |
| 上野理恵 | 看護学科・助教 | 在宅看護実践方法 | 災害教育・地域での予防活動の実践 |
| 今西麻樹子 | 医療検査学科・助教 | POCT の管理法と精度管理 | POCT 機器及び試薬の管理 |
| 澤村 暢 | 医療検査学科・助教 | 災害医療と臨床検査 | 災害時の臨床検査実践法の開発 |
| (共同研究機関等) | | | |
| | | | |

<研究者の変更状況（研究代表者を含む）>

旧

| プロジェクトでの研究課題 | 所属・職名 | 研究者氏名 | プロジェクトでの役割 |
|----------------|-----------------|-------|------------|
| こどものための防災教育の構築 | 教育学部こども教育学科・准教授 | 小崎 恭弘 | 協同学習の計画・実践 |

(変更の時期：平成 26 年 4 月 1 日)



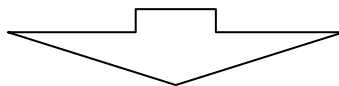
新

| 変更前の所属・職名 | 変更（就任）後の所属・職名 | 研究者氏名 | プロジェクトでの役割 |
|-----------|---------------|-------|--|
| 辞退 | | | 小崎がプロジェクトを抜けても、光成が中心となり、こども教育学科の研究者が補う |

旧

| プロジェクトでの研究課題 | 所属・職名 | 研究者氏名 | プロジェクトでの役割 |
|--------------|-----------|-------|----------------|
| 災害医療と臨床検査 | 保健科学部・准教授 | 向井 正彦 | 災害時の臨床検査実践法の開発 |

(変更の時期：平成 27 年 4 月 1 日)



新

| 変更前の所属・職名 | 変更（就任）後の所属・職名 | 研究者氏名 | プロジェクトでの役割 |
|-----------|---------------|-------|----------------|
| 災害医療と臨床検査 | 保健科学部・助教 | 澤村 暢 | 災害時の臨床検査実践法の開発 |

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281031 |
| プロジェクト番号 | S1312008 |

1 1 研究の概要 (※ 項目全体を 10 枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

目的

神戸常盤大学は阪神・淡路大震災で被害が甚大であった神戸市長田区にある。建物は復興されたが住民数は減少し高齢化が進み、長田区の高齢者率は神戸市の中で極めて高い。我々は長田区にある唯一の医療系大学として、尊い命をサポートする具体策を提示する責務があり、高齢者が安心して暮らせる環境の構築はこの地域の重要な課題である。

平成 22-24 年度の文部科学省戦略的研究基盤形成事業にて「看護師と臨床検査技師の合同チームによる移動型健康管理 Mobile Health Check (MHC) システムの構築」との研究を遂行し、出向いて検査を行うことで、研究協力者の健康管理の意識向上につながるなどの成果を挙げた。さらに、MHC を元に想定した災害時の健康チェック構想を、東日本大震災後の被災地における臨床検査支援活動にて生かすことが出来た。

本研究はこれまでに培った MHC をより実践的に応用し、こども教育学科の視点から心を豊かにするなど、人間を全体的にサポートできる長所を活かし、災害時に健康を維持するだけでなく、平時から災害に向けた危機対応プログラムを作製し、全人的な危機対応と実践の神戸常盤モデルを提唱することを目的とする。

意義

平成 22-24 年度の本事業にて実施した研究では医師、看護師、臨床検査技師など医療資格を有した者がチームとして活動し、移動型健康管理 Mobile Health Check (MHC) システムを形成し、その具体的活動法を示すことが出来た。さらに東日本大震災では全国規模の臨床検査支援にて、MHC の発想を災害時の臨床検査支援活動に応用できた。

このように本プロジェクトの基盤は学術的特色だけでなく、実社会で応用出来ることに大きな意義がある。これは平成 22-24 年度の本事業にて蓄積した経験と知識の中でも、事前に構想と経験を積むことで災害発生時の危機に対しても直ちに応用出来ることを証明した事例である。

災害発生後は肉体的な健康だけでなく、精神的なサポートも必要である。本プロジェクトは災害時だけの対策に注目した内容ではなく、地味であるが平素から留意すべき点を具体的にし、危機対応能力を備えながら、平時においては地域医療の補完的な役割を確立することに意義がある。

例えば災害をきっかけに介護不要であった者が要介護になる可能性がある。そうならぬよう、MHC を用いてこちらから積極的に出向き、健康チェックをキーワードに対人コミュニケーションを通じ、社会とのつながりを促すことが出来る。なぜなら我々が構築した MHC は、検査結果をその場で見せながらアセスメントを行うことにより、対象者の不安を取り除く事ができる双方向型の健康チェックであり、もし異常値を認めた際には最寄り医療機関への受診を促すこともできるからである。

東日本大震災では「釜石の奇跡」として、釜石市沿岸部の小中学生がほぼ全員が避難出来た。それは「自らの判断で逃げる習慣を身につける」との危機対応力を養っていたからと言える。本研究では「こども教育学科」の研究者を中心に、危険性を想定し、安全に行動できるよう、積極的な方法として、セーフティーマネージメントの構築を目指し、防災・安全教育を意識づけるプログラムの立案をすることにも意義がある。

このような危機対応意識を持ちあわせた状態で、避難所生活を迎えた場合、避難所に

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281031 |
| プロジェクト番号 | S1312008 |

おける「こどもの笑顔」を取り戻し易くなることが想定され、避難所全体に希望と明るさを運びこむことも可能となる。

本プロジェクトでは「お元気でっ Car」での健康管理を行う機器類に加え、防災・安全教育教材を搭載し、平時より災害対応を組みながら、地域の方々の全人的な機動的サポートシステムの構築を目的とする。さらに災害発生時には「お元気でっ Car」を支援活動に活用するだけでなく、本学が地域の危機対応センター的な機能を持って社会に貢献出来る事にも意義をおく。

計画の概要

本研究は単に危機対応マニュアルを作成することが目的ではなく、その普及及び啓蒙活動を行いながら、地域の健康管理の体制を築こうとする計画である。

保健科学部の研究者が健康に関するサポート体制を実践的に構築し、教育学部の研究者の視点から主にこどもの心を豊かにするなど、人間を全体的にサポートできる長所を活かす。すなわち、平時から災害に向けた「危機対応プログラム」を流布しながら、健康チェックのシステムを確立し、そのノウハウを活かして災害時は地域住民の健康を維持する、全人的な危機対応と実践の神戸常盤モデルを提唱する。

防災・安全教育に関しては、自らがリスクを想定し、安全に行動できる、積極的な危機対応能力を幼少時から養える教育が有効である。積極的なセーフティマネージメント方法では、こどもだけでなく保護者の意識改革も行えるようにする。その際に学生のフィールドワークも交え、防災・減災教材の開発を通じて地域との交流を通じ、災害時には本校が地域の危機対応センターの機能を有す仕組みも開発する。

一見バラバラに見える活動であるが、3学科の特色を生かし、平時には健康管理を通じた地域医療の補完的役割の構築を兼ねながら、調査研究を通じて危機対応モデル構築が可能である。コアとなるのは「お元気でっ Car」であり、平時は健康チェックを行いながら防災減災教育の開発を行い、災害時には効果的な全人的な健康支援の提供を目指す。

(2) 研究組織

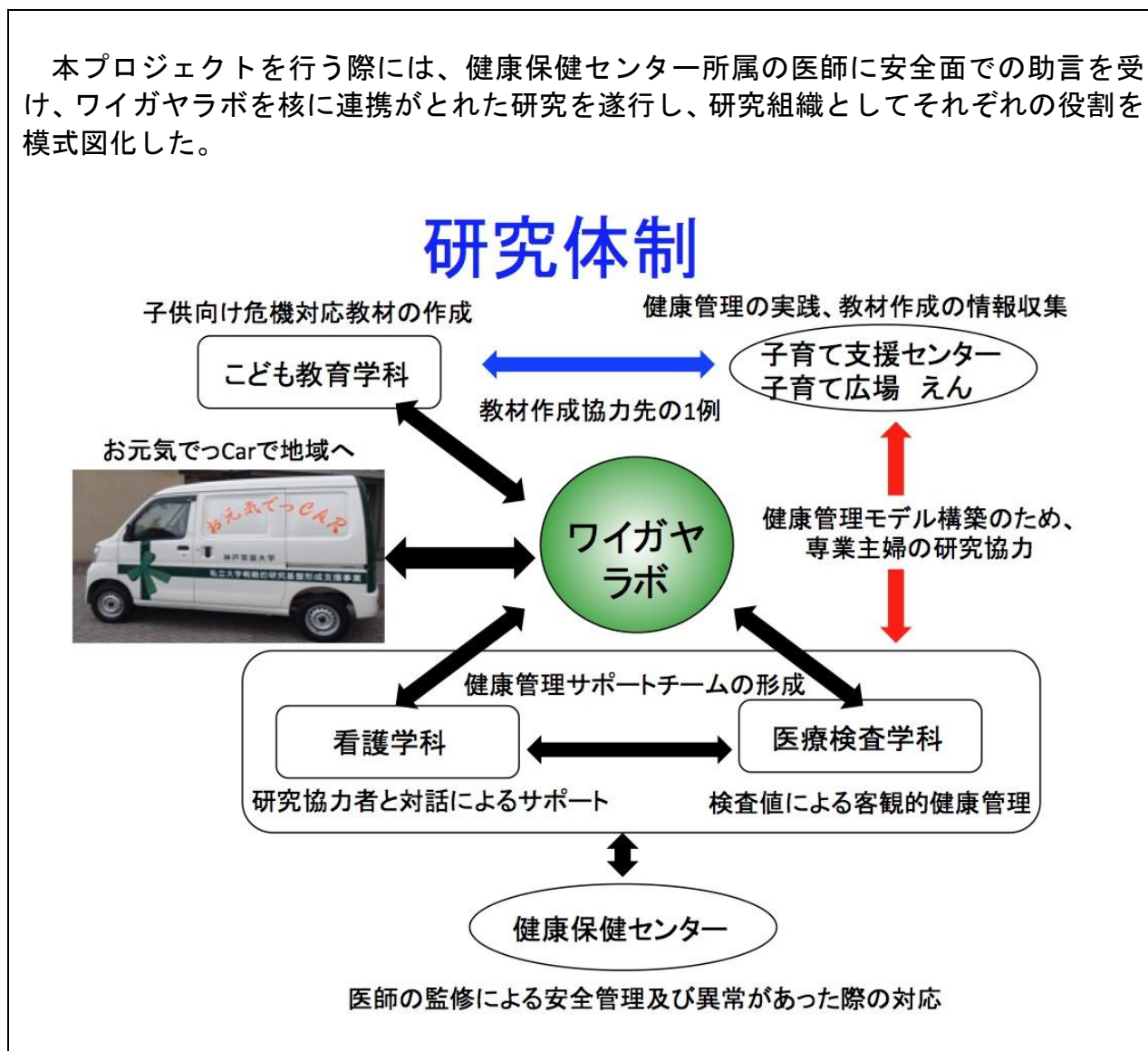
大学内に設置されている「ワイガヤラボ」を中心に、本研究プロジェクトを実施した。本学は非医療機関であるが、プロジェクトに健康保健センター兼務の医師も参画し、研究協力者へ不利益を及ぼさないよう、健康面に関して計画段階から関与している。

本研究は健常者を対象としており、疾患を抱えた患者と対応は異なり、看護学科研究者が被検者との関わりをスムーズに行えるよう取り組んだ。その結果として対話等からニーズに関する情報を引き出すなど、健康保持増進を支援するため、主として対人的な研究手法で研究を実施した。また、段ボールを用いた避難所の模擬作成、防災グッズの展示と紹介も行い、防災・減災への意識付けも遂行した。

医療検査学科では、医療施設外において小型の分析装置であっても正確な測定値を提供できる体制及び、移動型検査として検査を実施し、その情報を研究協力者に提供し、各検査が保つ意味の説明も行った。また、研究協力者に不利益が生じないよう、特に感染防止策について効果的な手段の構築も行った。

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281031 |
| プロジェクト番号 | S1312008 |

本プロジェクトを行う際には、健康保健センター所属の医師に安全面での助言を受け、ワイガヤラボを核に連携がとれた研究を遂行し、研究組織としてそれぞれの役割を模式図化した。



(3) 研究施設・設備等

研究施設：神戸常盤大学 ワイガヤラボ(180 m²)

既存施設であり、可動式のテーブル及び椅子が設置され自由にレイアウト変更可能なオープンスペースとして、種々の打ち合わせやデモンストレーション等もこのスペースを使って行なった。

複数グループに分かれたセッションが出来るよう、プロジェクターが複数設置され、壁一面がホワイトボード機能も兼ねており、視聴覚施設もある。研究打ち合わせや、教材作成の場として利用。

研究施設：神戸常盤大学 健康保健センター(56 m²)

既存施設であり、健康評価機器として生体組成分析装置、血圧動脈硬化度分析計、加速度脈波ストレス分析装置、ヘモグロビン量測定装置、呼気ガス分析装置、生活習慣記録機を備えている。これらの機器を用いて、教職員および学生だけではなく地域住民に対して健康管理教育や健康増進に関する知識の普及、健康展を実施し生活習慣病の啓蒙活動を実施している。

研究設備：お元気でっ Car

健康管理センターで有す機能とほぼ同等の健康管理機能を搭載出来るよう、ヘモグロ

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281031 |
| プロジェクト番号 | S1312008 |

ビン測定装置、脈波測定装置、血圧計、体脂肪計などの測定機器に加え、健康管理用のコンピュータが一体型になった装置を作成した。

さらにこのシステムを自動車から出した際、台車一体型として容易に搬出し、屋内外での移動ができるよう、本学オリジナル健康管理装置を作成した。

このオリジナル健康管理装置を軽自動車に搭載し、運転中に中で移動しても故障しないよう、軽自動車内装にも工夫を凝らし固定できるようにした。車内にはさらに片手で持ち運びできる、小型生体試料分析装置、各種の防災教育教材も搭載できるスペースを設け、この車両を「お元気でっ Car」と命名し作成した。

「お元気でっ Car」に搭載した健康管理チェックシステムはタッチパネル式で操作が容易に出来、車に搭載可能であるから遠隔地におもむいて実施可能である。

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

研究プロジェクトの計画や目的・意義と関連づけて、当初の目標をどれだけ達成したか記述するとともに、新たに得られた知見などについても具体的に記述してください。

当初の目的

「地域の健康管理体制」を築きながら、平時から「災害に向けた危機対応プログラムを作製」し、全人的な危機対応と実践の神戸常盤モデルを提唱する。

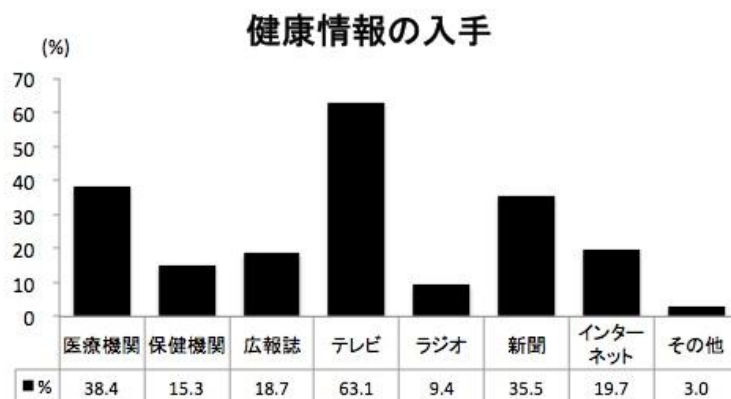
達成に関する成果

「地域の健康管理体制の構築」についての成果

本プロジェクトの中心的でシンボリックな役割を果たす、「お元気でっ Car」の作成及び納車に時間がかかり、研究初年度の平成 26 年 2 月となってしまった。納車までの期間、研究倫理委員会申請書類の作成と審査を進めた。オリジナル健康管理装置を用いずとも行える研究を進めた。

研究結果の一部を以下に示すが、健康に関しての関心は高く、それらの情報は医療機関や保健機関からも入手しているものの、テレビや新聞などの一方向的な情報も利用している。一方的な情報では不安や疑問を感じても、それを解くためにはまた自分で調べるか、情報を待つしかない。

そのような際には検査を行い、検査に関する疑問をその場で解消することが被検者にとっては有益な情報を与えるだけでなく、精神的な安定感も与えることが可能となる。



これらの研究では神戸常盤大学倫理委員会の審査を経て質問事項に加え、個人情報保護と研究協力者の意思を尊重し、同意書に署名を頂いた。同意を頂いた方を研究協力者し、健康管理に関するアンケート調査も行い、日頃の健康管理に関する意識調査もあ

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281031 |
| プロジェクト番号 | S1312008 |

わせて行った。

地域の健康管理体制を築くことを主眼におき、機動性をもって健康管理を行う仕組みを作る事を目標とした。したがって、健康調査であれば定点観測として一箇所で定点的に健康調査を行い、追跡を長期にわたって行うことは有益であるが、本研究では健康調査そのものを目的としなかった。地域の健康管理体制を築くことが目的でもあり、健康管理へのニーズを得るため「お元気でっCar」の機動性を活かし、各地に出向いて研究を展開した。

主に医療検査学科と看護学科の研究者が実施した健康管理では、「お元気でっCar」を利用し、兵庫県が主催する健康フェスティバルで日本海側の但馬地方や淡路島を訪れるなど、老若男女が多数集う場所にも出向き研究を行った。また、本学キャンパス内で開催される、Tokiwa 健康フェアも利用し大学内で大々的に健康管理へのニーズ調査だけでなく、防災・減災グッズの展示、仮設避難所の模擬体験スペースを設け、災害に対する啓蒙活動も行った。

調査をすすめる内に、健康に関心がありながらもなかなか自分の健康管理を行い難いのが、乳幼児を育児中の主に女性であることが分かり、本学が管理を行っている「子育て広場 えん」での調査結果より、乳幼児を育てる若い世代にも、健康管理のニーズがあることが明らかとなった。



お元気でっCar 外観と内部の健康管理装置を引き出した状態。



「子育て広場 えん」で健康管理を実施



屋外で健康管理を実施した様子



大学内で健康管理を実施

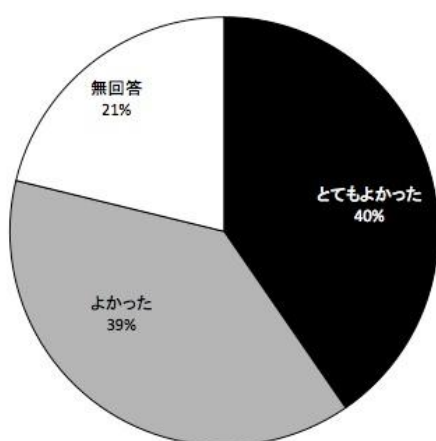
| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281031 |
| プロジェクト番号 | S1312008 |

検査を受けることに関する意識について

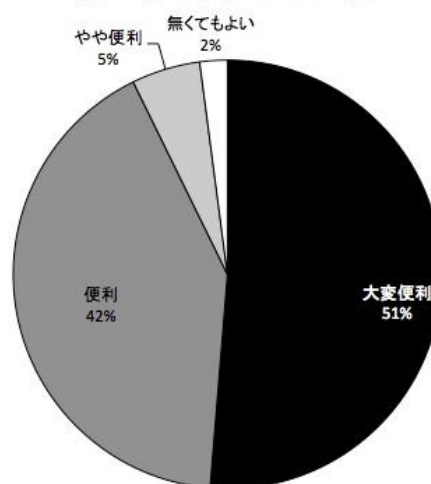
これらの研究をすすめた上で、検査の意味や結果をその場で受けることの有用性についても調査も行った。

検査の意味をその場で聞けることの意義に関しては「とてもよかった」と「よかった」を含めると約 80%の研究力者は良い印象をもった。尚、良くない、不要等の否定的な項目も設けていたがそのような回答はなかった。また、お元気でっ Car に健康管理装置を運んでこちらから出向いて実施する検査検査に関しては「大変便利」「便利」との回答が約 80%の研究力者から得られ、出向いて実施する検査への期待が高い事が明らかであった。

検査の意味をその場で聞ける意義



検査する側が出向く検査



「災害に向けた危機対応プログラムの作製」についての成果

こどもを対象とした防災学習会の実施

こどもの保育・教育に携わる人材として保育や教育にかかわる内容の向上、または課題に効果的に取り組む態度を養成することを目的とし、「保育実践演習」とのゼミ形式の科目を利用し、防災学習会を企画し、実施した。具体的には、課題の立て方、分析や検討の方法について学び、研究的態度をもって主体的に取り組む基盤を育成することである。

防災学習会実施のねらいとして「1. 小学生が、震災について知ること、2. 防災について考えること、3. 災害時に備えて日常的な備えができるようになること」の3つを挙げ、プログラムを実施した。このねらいを達成するためのプログラムとして、まず小学生に阪神淡路大震災について知ってもらえるよう、写真やビデオを準備し、説明を行った。それらを視聴することに加えて小学生により理解を深めてもらうために体験を重視した内容を検討し、避難所体験、非常食を使った食事体験、防災リュック・紙スリッパづくり、防災マップ作りなどを行った。

阪神淡路大震災当時の避難所の様子についての説明を行った後、その後の全国で発生した震災経験から避難所の在り方が改善、進化していることを児童に知ってもらった。具体的にはプライバシー保護の観点から段ボールによる私的空間の確保など避難所生活について考える機会を設けた。また非常食を準備することの重要性、火を使わず、水も満足にない状況での食事、ごみを出さないための工夫について考え、実際にレトルトカレーや火を使わず炊けるごはんを活用した食事をとった。

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281031 |
| プロジェクト番号 | S1312008 |

その後、防災リュックを準備することの必要性、なぜ紙スリッパが必要になるかなどについても児童と一緒に考え、学生が指導を行った。また本学が避難所になったときのことを想定し、児童の目線に立って学内の危険個所をチェックし、学内の安全マップづくりも行った。

小学生対象なので簡単な内容のアンケートを作成し、プログラム実施後にアンケート回答と感想をえた。①～④のプログラムについて、よくわかった、わかった、わからなかった、の3択で質問し、最後に感想を書いてもらった。

- ①避難所についての説明
- ②避難所の食事について
- ③防災マップづくりについて
- ④防災リュック・紙（新聞）スリッパづくりについて

アンケート結果及び感想の概要

アンケートでは全員の児童が「よくわかった」、または「わかった」との回答であり、「わからなかった」との回答はゼロであった。

感想としては、「紙スリッパをはいて、ガラス破片と想定した卵の殻を踏んでも痛くなかった」「最初のビデオ（阪神淡路大震災についてしてもらったために用意した）をみるときに、しっかり見ていなかったのが残念だった。（ちゃんと見ていればよかった）」「カレーがおいしかった」などが挙げられた。

防災学習会の効果

本プログラム実施の効果としては、児童に防災についての必要性を少しでも感じてもらったことと、指導する学生が児童にわかりやすく伝えるために、年齢に応じた教育内容、教育方法を工夫することの重要性を再認識することができたことなどがある。

本プロジェクト以前に、幼児を対象とした防災教育を実施したときの反省点として「子どもたちに考えさせる機会を十分に与える」、「子どもたちが受け身ではなく、主体的に考え、動くことのできる活動」等を重視したプログラム立案を意識して企画した。

今回の対象は幼児より理解が進んでいる児童であり、6歳から11歳までと幅広い年齢の児童を一度に対象としたので、発達による理解力の差、年齢毎に分けてプログラム内容を検討する必要性を感じた。

防災学習会の成果発表

地域のこども達に対する防災学習会（2014年9月13日）を実施し、その内容を元に「震災を経験していない世代が教師になったとき」とのテーマで「震災20年記憶のフラット化プロジェクト」に参加し、2015年1月10日に神戸市民の前で神戸市立地域人材支援センターにおいて、研究成果発表を行った。

神戸市立真野小学校との連携による「神戸発、生きる力をはぐくみ、未来へつなぐ」防災教育研究大会（2015年12月11日）への参加、幼児や小学生を対象とした防災教育のための教材の作成（防災デジタル紙芝居）を実現した。2014年9月13日（土）に6歳～11歳までの児童を対象に防災学習会を実施した。

幼児や小学生を対象とした防災教育のための教材の作成

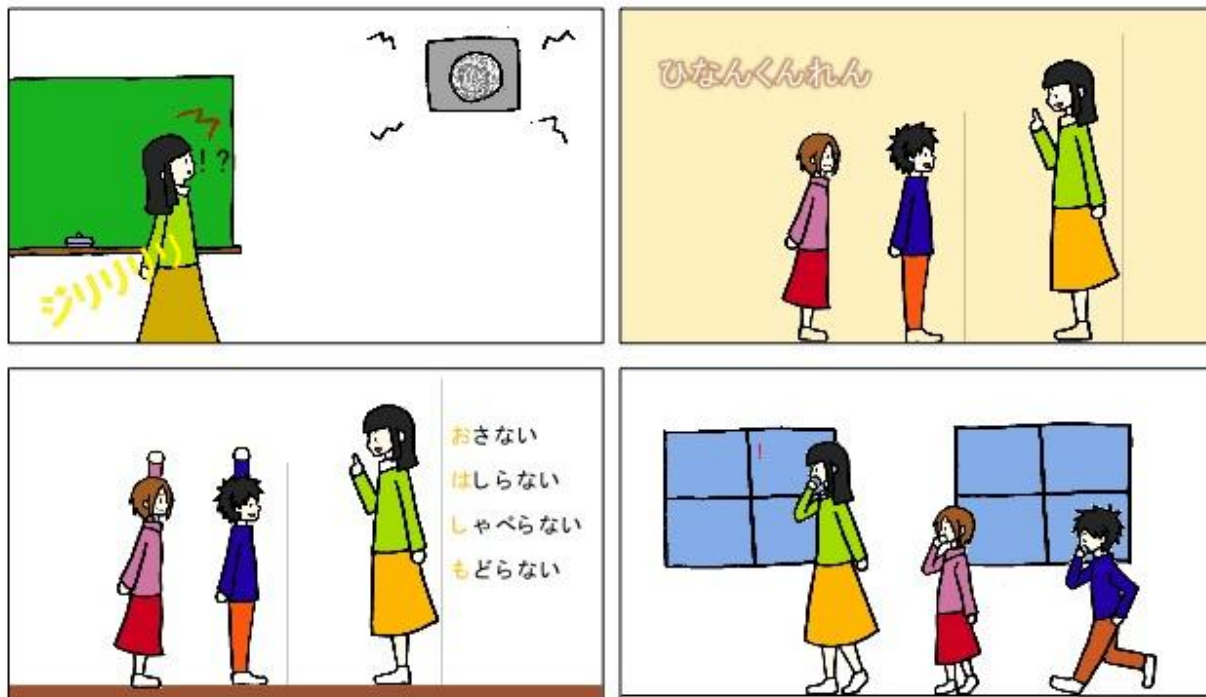
こども教育学科が中心となって進めている防災・減災対応のこども向け「危機対応プログラム」教材作成を進め、幼児や小学生を対象とした防災教育のための教材として、防災デジタル紙芝居の作成を以下のように行った。

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281031 |
| プロジェクト番号 | S1312008 |

平成 26 年度に「保育実践演習」という科目の中で取り組んだ。この取組の目的は、本学の学生が地域の子どもたちを対象とした防災学習会を実施する際に、多人数であっても無理なく視聴することができ、また対象とする子どもの年齢に適合した分かり易い教材を作成することで、学習の効果をより高めることができると考えたからである。

取組の結果として、4つのデジタル紙芝居を完成させた。内訳は、幼児のためのデジタル紙芝居として「地震に関するもの」、「防災袋に関するもの」の2点、小学生のためのデジタル紙芝居として「地震に関するもの」、「避難訓練に関するもの」の2点である。

以下にデジタル紙芝居の作成例一部を示す。



以上のように当初目的であった、「地域の健康管理体制」と「災害に向けた危機対応プログラムを作製」を遂行した。これらの成果以外にも<優れた研究成果>に記すよう、研究成果を国内外で様々な形で公表し、当初の目的をほぼ達成した。

<優れた成果があがった点>

研究代表者の坂本は、本研究のベースとなる災害時の臨床検査支援、被災後の健康管理の実践について国際的に評価を受け、分担著者として英文書籍を出版*18した。また、2015年11月にメキシコで開催された国際臨床化学会(IFCC)にてシンポジスト*23として招待され、どのように健康管理支援を行えばよいか、「お元気でっCar」にも搭載している「小型生体試料分析装置」を利用した災害後の健康管理支援の行い方について、研究成果の一部につき講演を行った。また邦文ではあるが、地域医療、災害医療で活躍する臨床検査として臨床検査専門雑誌の新年特集号に取り上げられた*3。

これらの事実は本研究が日本だけでなく、世界的にも評価されていることとして特に優れた研究として評価出来る。

また、畑は模擬避難所体験を通し、被災者の目線から避難所が持つべき機能について、避難所の環境設定上の課題及び大学への期待を明らかにし、避難所の環境設定の視点と大学への期待について論文執筆及び学会発表を行った*10、27。これらの知的実証もあり後述する、神戸市内の大学で初めての「福祉避難所」指定にも結びついた。

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281031 |
| プロジェクト番号 | S1312008 |

<課題となった点>

本プロジェクトでは健康管理チェックシステムの利用、臨床検査の実施は研究協力との形であり、人件費や試薬を含めて無料で管理を行うことが可能であった。出向いて健康管理を実施することに対する評価は研究協力者からは良好であったが、それは無料で実施し、利用者への負担が無かったことでそのように評価を受けた可能性がある。実社会でこのシステムを運用する際には初期投資として機器類の購入費用、検査試薬代金、人件費を含めた予算が必要となる点が問題点と予想される。

この問題点を克服するため、行政も交えた公的な健康管理の仕組みを構築することが必要である。また、衛生検査所登録を行い、医師からの具体的な指示を受けて臨床検査が静脈採血を行い、その場で POCT 対応装置を利用して測定を行えば、さらに精度の高い信頼できる検査結果を得ることが可能である。

<自己評価の実施結果と対応状況>

平成 25 年度採択後、プロジェクトに参加する研究者全員による打合せ会（キックオフ・ミーティング）を行った。本プロジェクトは同じ大学の 2 学部 3 学科の共同研究であるので、各学科の特徴を生かした取り組みをそれぞれが検討及び実施することとしているため、それぞれの計画を確認しあう場として研究開始にあたって開催した。

その後の自己評価の実施結果については、本学には自己点検評価委員会があり、各自の研究成果を評価し、その結果を冊子として毎年発行している。

また、毎年度神戸常盤大学・神戸常盤大学短期大学部主催で行われる「健康フェア」に、本研究プロジェクトチームも参加している。本事業の開催前の研究者間の打ち合わせや、事後の反省会なども行っている。

研究費等の資源の配分に関しては、本プロジェクトが採択された際には事務系職員にも本プロジェクトの意義と内容を伝え、事務職員が予算執行に関わっている。

平成 27 年 1 月 21 日に、会計検査院の調査を受けた際に、購入した設備の「電動自転車」について、購入金額が当初予定よりも高額であった点について指摘を受けた。

その点について、内部で経緯をたどり、今後の研究費の使用について見直しを行った。経緯については、私立学校振興・共済事業団補助金課を通して会計検査院に説明を行い、事業の遂行に必要な物品であり、購入の経緯についても問題は無いと認められた。

経費の使用について見直しを行えたことは、事後の研究費の使用について大いに参考になった。

<外部（第三者）評価の実施結果と対応状況>

本学には研究協力課（現：学術推進課）があり、研究費の使用段階で不正使用、逸脱使用の有無を確認するシステムがある。

研究者は個々に、研究倫理に関する研修と研究費の不正使用防止に関する研修をそれぞれ受講し、誓約書を提出している。

公的研究費の管理・監査規程にしがたい研究費の使用状況については、学内での監査を実施し、承認を得た。（参考資料は 18 経費の支出状況の次に添付。）

また、第三者の外部評価委員を平成 25 年度より委嘱し、研究費の使用やプロジェクトの評価などを随時受けることとし、平成 27 年度には評価委員会を開催し高い評価を受けることが出来た。

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281031 |
| プロジェクト番号 | S1312008 |

<研究期間終了後の展望>

(本プロジェクト終了後における研究の継続の有無、有の場合は今後の研究方針、無の場合は当該研究施設・装置・設備の活用方針を記述してください。)

本学が災害時の福祉避難所に公的に認められ、本研究でこれまで培ってきた研究成果である、避難所の環境改善を通して実社会に研究成果を還元が期待出来る。

また、「危機対応プログラム」として幼児を対象にした地震に関するデジタル紙芝居、防災袋に関するデジタル紙芝居、小学生を対象にした地震に関するデジタル紙芝居、避難訓練に関するデジタル紙芝居など子供向け教材を利用し、防災教育を通じた全年齢的危機対応教育を通じた、

医療機関での医療サービスから、在宅医療に代表される居宅での医療サービスに重きが近年はおかれている。厚生労働省では地域包括ケアシステムを掲げ、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制の構築を推進している。

本研究は健康管理との医学的な側面をもちながらも、「災害対応を組み込んだ機動的サポートシステム」の構築を目指し、「人文・社会」の審査区分で推進し、地域社会をサポートする様式の構築を行った。

<研究成果の副次的効果>

(研究成果の活用状況又は今後の活用計画(実用化・企業化の見通しや、特許の申請があればその申請状況・取得状況等)について、記述してください。)

神戸市にある大学で最初に「福祉避難所」の指定を受けた。(2015年5月)

災害時における要援護者の支援体制を充実させるため、神戸市より本学が福祉避難所として指定された。本学はこれまでに体育館等が指定収容避難所として指定を受けており、災害発生時に福祉避難所との一体的運営が可能になる。

本校を福祉避難所にする事で、こども教育学科及び幼稚園が敷地内にあることから、主に乳幼児と保護者・妊産婦を対象とした運営も可能である。また、看護学科、医療検査学科等を有しているため、神戸市が指定避難所で行う要援護者の実態調査、要援護者に対する日常生活上の支援につき専門職や学生ボランティアの人的協力が行える。さらに、本研究を通じて作成した防災カリキュラム実施を学内で行え、本プロジェクトで遂行している研究内容を実社会に貢献することが可能となった。

これは本研究が地域社会に認められ、実用化された副次的効果の最たる成果である。

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281031 |
| プロジェクト番号 | S1312008 |

1 2 キーワード（当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。）

- (1) 災害対応プログラム (2) 移動型健康管理 (3) お元気でっ Car
 (4) デジタル紙芝居 (5) _____ (6) _____

1 3 研究発表の状況（研究論文等公表状況。印刷中も含む。）

上記、1 1 (4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

論文名、著者名、掲載誌名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年（西暦）について記入してください（左記の各項目が網羅されていれば、項目の順序を入れ替えても可）。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

1. 鵜飼 知鶴, 畑 吉節未: 療養通所介護事業に従事する看護師がとらえる訪問看護師との連携の実際, 査読有, 第46回日本看護学会—在宅看護—, 印刷中
2. 内海, 畑吉節未: 訪問看護師の職業的アイデンティティの尺度開発の試みと信頼性・妥当性の検討, 査読有, 香川大学医学部研究紀要, 20(1), 39-49, 2016.
3. *坂本秀生. 地域医療, 災害医療で活躍する臨床検査. 査読有. 臨床検査 60(1) 22-28. 2016.
4. 畑 吉節未: 在宅療養支援診療所の活用事例にみるモバイル検査機器の有用性と課題の検討, 査読有, 癌と化学療法, 42(1), 13-16, 2016.
5. 鵜飼 知鶴, 畑 吉節未: 療養通所介護における多職種連携の実際～多職種連携のレベルから見えてくるもの, 査読有, 癌と化学療法, 42(1) 39-41, 2016.
6. 坂本秀生. POC コーディネータの役割 査読有. 臨床病理 63(2). 238-241. 2015.
7. Tanaka M and Ueda K 他8名 Production of Hyperpolarized ³He Gas for Medical Imaging. Proceeding of Science, Italy, 045 pp.1-6. 2015
8. 光成研一郎. アクティブ・ラーニング (PBL 型授業) の展開 —ジョン・デューイの教育理論を基礎として— 査読有. FERI 未来教育研究所紀要第3集, 5-14. 2015.
9. 畑吉節未: ポイント・オブ・ケアテストングが創出する新たな在宅看護像-POCT導入上の課題の検討 -, 査読有, 癌と化学療法41(1). 2015.
10. 坂本秀生. 組織として POCT を運用する目的. 査読無. 医療と検査機器・試薬, 37(3), 307-310. 2014.
11. *畑吉節未: 巨大災害に備える長田の避難所モデルの構築, 査読無, 平成25年度神戸市長田区安心・安全研究助成報告書, 2014.
12. 幸嶋美恵, 畑吉節未: 看護学生のレディネスを生かす災害看護教育方法の検討, 査読有, 第44回日本看護学会—看護教育—論文集, 2014.
13. 谷口由佳, 坪井桂子, 沼本教子: 意思疎通不可能な高齢者の終末期ケアに取り組む看護職の体験, 査読有. 老年看護学18(2); 95-104, 2014.
14. 上田國寛. 全国初の臨床検査技師養成指定大学における人材の育成 —神戸常盤大学保健科学部医療検査学科が目指すもの—. モダンメディア 60(3) 2014.
15. 坂本秀生. POCT の国際的動向. 査読無. 医療と検査機器・試薬. 36(2) 157-161. 2013.
16. Tanaka M and Ueda K 他15名. Production of Hyperpolarized Nuclei for MRI. Physics of Particles and Nuclei, 44(6), 959-963, 2013,
17. 坂本秀生 他 27. POCT ガイドライン第3版. 査読有. 日本臨床検査自動化学会会誌. 38(Suppl) 3-116 2013.
18. 住吉和子, 畑吉節未: 糖尿病患者を受け持つ介護支援専門員と医療者の地域連携の実際, 査読有, 日本在宅医学会誌, 14(2), 2013.

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281031 |
| プロジェクト番号 | S1312008 |

<図書>

図書名、著者名、出版社名、総ページ数、発行年（西暦）について記入してください（左記の項目が網羅されていれば、項目の順序を入れ替えても可）。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

18. *Global Point of Care: Strategies for Disasters, Emergencies, and Public Health Resilience. Gerald J. Kost, (Ed). Hideo Sakamoto. 分担執筆 Experience of Laboratory Medicine relief using POCT devices after the Great East Japan Earthquake pp. 445-451. AAC Press, 総ページ 701, 2015.
19. POCT が変える医療と臨床検査. ♪谷直人（編）坂本秀生. 分担執筆. 在宅医療の検査 101-106, POCT の海外動向 117-128. じほう. 総ページ数 137, 2014.

<学会発表>

学会名、発表者名、発表標題名、開催地、発表年月（西暦）について記入してください（左記の項目が網羅されていれば、項目の順序を入れ替えても可）。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

20. 坂本秀生. 大規模災害時における臨床検査支援. 和歌山県臨床検査技師会災害フォーラム. 2015年12月 和歌山
21. 畑吉節未: 訪問看護師の職業的アイデンティティの尺度開発の試みと信頼性・妥当性の検討, 第36回日本看護科学学会, 2015年12月広島
22. 畑吉節未: 訪問看護師のチームアプローチ経験と所属組織のスーパービジョンの機会及び介護体験との関連, 第36回日本看護科学学会, 2015年12月広島
23. *Sakamoto H. POCT is useful for disaster relief activity. IFCC POCT International Symposium. Cancun, Mexico. November, 2015.
24. 畑吉節未: 病棟と在宅をつなぐ看護師の学び～退院した受持ち患者の在宅訪問経験から～, 第5回日本在宅看護学会, 2015年11月 東京
25. 鵜飼知鶴, 畑吉節未: 療養通所介護における看護実践行動の実際: 第5回日本在宅看護学会, 2015年11月東京
26. 鵜飼知鶴, 畑吉節未: 療養通所介護事業に従事する看護師がとらえる訪問看護師との連携の実際, 第46回日本看護学会-在宅看護-, 2015年10月愛知
27. *畑吉節未: 地域住民が指定避難所としての医療系大学に寄せる期待～模擬避難所体験を通じたニーズ把握をもとに～, 第17回日本災害看護学会学術集会, 2015年8月仙台
28. Tanaka M, Ueda K 他9名: Production of Hyperpolarized ^3He Gas for Medical Imaging 2015 International Workshop on Polarized Sources, Targets & Polarimetry. Berlin, German September 2015
29. 畑吉節未: 備えを高める災害看護シミュレーションプログラムの開発と試行, 第19回日本看護管理学会学術集会, 2015年8月 福島
30. 畑吉節未: 在宅ALS療養者の災害の備えの検討～被災経験を持つ療養者・家族の語りをもとに～, 第20回日本難病看護学会, 2015年7月東京
31. 畑吉節未: 24時間緊急連絡・相談対応に見る在宅療養者の健康リスクの分析, 第20回日本在宅ケア学会, 2015年7月東京
32. 畑吉節未: 在宅療養支援診療所の活用事例にみるモバイル検査機器の有用性と課題, 第26回日本在宅医療学会学術集会, 2015年7月東京
33. 鵜飼知鶴, 畑吉節未: 療養通所介護における多職種連携の実際～多職種連携のレベルから見えてくるもの, 第26回日本在宅医療学会, 2015年7月東京
34. 鵜飼知鶴, 畑吉節未: 療養通所介護事業所に従事する看護師が捉えた多職種連携上の課題, 第26回日本在宅医療学会, 2015年7月東京

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281031 |
| プロジェクト番号 | S1312008 |

35. 畑吉節未：災害時に在宅療養者を支える効果的な備えのための視点の検討～訪問看護師の災害時実践行動の語りをもとに，第 17 回日本在宅医学会学術集会，2015 年 4 月盛岡
36. 松井妙子，畑吉節未：文献にみる「Trans disciplinary team」の概念，第 18 回日本在宅ケア学会学術集会，2015 年 3 月東京
37. 畑吉節未：A research for the disaster preparedness of the home-visit nursing care stat，第 20 回日本集団災害医学会学術集会，2015 年 2 月東京
38. 清田はるひ，畑吉節未：在宅療養者の健康リスクの分析，第 67 回済生会学会学術集会，福岡，2015 年 1 月。
39. 坂本秀生．大規模災害時における臨床検査の必要性．和歌山県臨床検査技師会災害フォーラム．2014 年 12 月 和歌山市
40. 畑吉節未，上野理恵，鎌田美智子：保健健康サービスへのポイント・オブ・ケア・テストイングの適用可能性の検討，2014 年 11 月 福岡
41. Tanaka M and Ueda K 他 Pomeranchuk cell for hypepolarized 3He based on the brute force method Fourth Joint Meeting of the Nuclear Physics Divisions of the American Physical Society and The Physical Society of Japan. Waikoloa Village, HI, October, 2014
42. 坂本秀生．向井正彦．POCT 対応装置及び非侵襲健康管理装置搭載した「お元気でっ Car」の開発．日本臨床検査自動化学会第 46 回大会．2014 年 10 月 神戸市
43. Sakamoto H and Hata K. 他 14 名．Introduce the Mobile Health Check Car using POCT devices in Japan. AACC CPOCT 25th International Symposium. San Diego, CA. September, 2014.
44. 鈴木ひとみ，十九百君子，尾崎雅子，谷口由佳，南部由江，鎌田美智子，長尾厚子：看護学生の模擬患者との対応場面での体験と社会的スキルとの関連，日本看護学教育学会第 24 回学術集会．2014 年 8 月 千葉
45. 坂本秀生．大規模災害後こそ必要な臨床検査．第 7 回 山梨県・長野県合同一般検査研修会．2014 年 7 月 甲府市
46. Sakamoto H and Hata K. 他 12 名．Mobile Health Check system: The preventive medicine model, using Point-of-Care Testing in Japan. 22nd International Congress of Clinical Chemistry and Laboratory Medicine. Istanbul, Turkey, June, 2014.
47. 坂本秀生．大規模災害時における臨床検査の必要性．日本臨床検査薬卸連合会平成 26 年年次総会．2014 年 6 月 東京
48. 坂本秀生．POCT の活用法．平成 26 年度 第 50 回日本赤十字社臨床検査技師業務研修会．2014 年 6 月 東京
49. 畑吉節未：ポイント・オブ・ケアテストイングが創出する新たな在宅看護師像—機器導入の課題の検討，2014 年 5 月．倉敷
50. 光成研一郎．こどものいのちとのかかわり「医療機関でのボランティアや保育実践支援プログラム」保育学会第 67 回大会．2014 年 5 月大阪
51. 坂本秀生．Mobile Health Check (MHC) の効果と「お元気でっ Car」への期待．第 16 回日本在宅医学会大会．2014 年 3 月 浜松
52. 畑吉節未，坂本秀生．ポイント・オブ・ケアテストイングが創出する新たな訪問看護師像．第 16 回日本在宅医学会大会．2014 年 3 月 浜松
53. 坂本秀生．POC 検査市場 運用の実際と将来展望．日本化学会 R&D 懇話会．2014 年 2 月 東京
54. 畑吉節未：災害看護実践行動の語りを活かした教育プログラムの検討，第 33 回日本看護科学学会学術集会，2013 年 12 月大阪
55. 畑吉節未：在宅療養者のための介護用品開発演習における学生の学びの検討：第 3 回日本在宅看護学会，2013 年 10 月東京
56. 幸嶋美恵，畑吉節未：看護学生のレディネスを生かす災害看護教育方法の検討，第 44 回日本看護学会—看護教育—，2013 年 10 月愛知，
57. 坂本秀生．組織として POCT を運用する目的．日本臨床検査自動化学会第 45 回大会．POC

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281031 |
| プロジェクト番号 | S1312008 |

| |
|--|
| <p>コーディネータ更新セミナー. 2013年10月 横浜</p> <p>58. 坂本秀生、向井正彦、今西麻樹子、上田國寛. 移動型健康管理システム(MHC)から「お元気でっCar」の開発へ. 第56回日本臨床検査医学会近畿支部総会 2013年10月 福井</p> <p>59. Sakamoto H and Hata K. Contribution of POCT to Home Health Care in Japan. S4th Congress of Asia Association of Medical Laboratory Scientists. Singapore, Singapore. October, 2013.</p> <p>60. Sakamoto H, Hata K, Matsuda M, 他 12 名. 2013 ASCP Annual Meeting. Chicago, IL USA. September, 2013.</p> <p>61. 畑吉節未: 災害看護実践行動において成果をあげた看護管理者の学びの構造の検討, 第17回日本看護管理学会, 2013年8月東京</p> <p>62. 畑吉節未: 災害看護教育プログラム開発のための基礎的研究ー災害看護実践の経験を持つ支援看護師の学びの構造の検討, 第15回日本災害看護学会学術集会, 2013年8月札幌</p> <p>63. 畑吉節未: 訪問看護師の職業的アイデンティティの検討ーグループインタビューを用いた質的帰納的分析による構成要素の抽出ー, 第16回日本ケアマネージメント学会学術集会, 2013年6月大阪</p> <p>64. 谷口由佳, 坪井桂子, 沼本教子: 意思疎通不可能な高齢者の終末期ケアに取り組む看護職の体験, 日本老年看護学会第18回学術集会. 2013年6月 大阪</p> <p>65. 坂本秀生. POCの予防医学への貢献 POCによる移動型健康管理(MHC)の可能性. 第62回日本医学検査学会 2013年5月 高松</p> |
|--|

<研究成果の公開状況> (上記以外)

| |
|---|
| <p>シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等 ※ホームページで公開している場合には、URLを記載してください。</p> <p><既に実施しているもの></p> <p>阪神・淡路大震災 復興のつどい～大震災から20年 未来へのメッセージ～. 神戸常盤大学. 2014年12月20日</p> <p><これから実施する予定のもの></p> <p>以下の学内HPにて、成果報告を掲載する http://www.kobe-tokiwa.ac.jp/univ/researcher/research_results.html</p> |
|---|

14 その他の研究成果等

| |
|---|
| <p>島内敦子、鎌田美智子: 母性看護学における情意領域の育成を目指した教育内容の分析, 第29回近畿・北陸地方会学術集会. 2016年3月 京都</p> |
|---|

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281031 |
| プロジェクト番号 | S1312008 |

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項とそれへの対応

<「選定時」に付された留意事項>

留意事項が付されていない場合は「該当なし」と記載してください。

該当なし

<「選定時」に付された留意事項への対応>

付された留意事項に対し、どのような対応策を講じ、また、それにより、どのような成果があがったか等について、詳細に記載してください。

<「中間評価時」に付された留意事項>

留意事項が付されていない場合は「該当なし」と記載してください。

該当なし

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

付された留意事項に対し、どのような対応策を講じ、また、それにより、どのような成果があがったか等について、詳細に記載してください。

| | |
|----------|----------|
| 法人番号 | 281031 |
| プロジェクト番号 | S1312008 |

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

| 年度・区分 | 支出額 | 内 訳 | | | | | | 備考 |
|--------|--------|-------|-------|----------|-------|-----|--------|----|
| | | 法人負担 | 私学助成 | 共同研究機関負担 | 受託研究等 | 寄付金 | その他() | |
| 平成25年度 | 施設 | 0 | | | | | | |
| | 装置 | 0 | | | | | | |
| | 設備 | 6,379 | 2,588 | 3,791 | | | | |
| | 研究費 | 3,020 | 1,644 | 1,376 | | | | |
| 平成26年度 | 施設 | 0 | | | | | | |
| | 装置 | 0 | | | | | | |
| | 設備 | 0 | | | | | | |
| | 研究費 | 3,005 | 1,551 | 1,454 | | | | |
| 平成27年度 | 施設 | 0 | | | | | | |
| | 装置 | 0 | | | | | | |
| | 設備 | 0 | | | | | | |
| | 研究費 | 3,127 | 1,473 | 1,654 | | | | |
| 平成年度 | 施設 | 0 | | | | | | |
| | 装置 | 0 | | | | | | |
| | 設備 | 0 | | | | | | |
| | 研究費 | 0 | | | | | | |
| 平成年度 | 施設 | 0 | | | | | | |
| | 装置 | 0 | | | | | | |
| | 設備 | 0 | | | | | | |
| | 研究費 | 0 | | | | | | |
| 総額 | 施設 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 装置 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 設備 | 6,379 | 2,588 | 3,791 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 研究費 | 9,152 | 4,668 | 4,484 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 総計 | 15,531 | 7,256 | 8,275 | 0 | 0 | 0 | 0 | |

| | |
|------|--------|
| 法人番号 | 281031 |
|------|--------|

17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。) (千円)

| 施設の名 称 | 整備年度 | 研究施設面積 | 研究室等数 | 使用者数 | 事業経費 | 補助金額 | 補助主体 |
|----------|------|-------------------|-------|------|--------|------|------|
| ワイガヤ | H24 | 180m ² | 1 | 約 | 3,045 | 0 | |
| 健康管理センター | H21 | 56m ² | 1 | | 21,630 | 0 | |

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m²

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

| 装置・設備の名称 | 整備年度 | 型 番 | 台 数 | 稼働時間数 | 事業経費 | 補助金額 | 補助主体 |
|--------------------|------|-----|-----|--------------------------------------|-------|-------|-------|
| (研究装置) | | | | h h h h h | | | |
| (研究設備) | | | | | | | |
| お元気でっCar | H25 | | 1 | 116 | 1,969 | 3,791 | 文部科学省 |
| お元気でっCarに搭載するプロウエル | H25 | | 1 | 123 | 4,410 | | |
| (情報処理関係設備) | | | | h h h h h h h h | | | |

18 研究費の支出状況

(千円)

| 年 度 | 平成 25 年度 | | |
|-----------------------------------|----------|----------------------|------------------------------|
| 小 科 目 | 支 出 額 | 積 算 内 訳 | |
| | | 主 な 使 途 | 金 額 |
| 教 育 研 究 経 費 支 出 | | | |
| 消耗品費 | 1,003 | 避難書簡易問仕切,プロジェクトヒスクリン | 297,127 |
| 光熱水費 | | | |
| 通信運搬費 | | | |
| 印刷製本費 | 392 | 健康フェアチラシ,新聞広告 | 150,183 |
| 旅費交通費 | 324 | 米国臨床検査学会,在宅医学会2名 | 190,95 |
| 報酬・委託料 | 285 | 装置レンタル料,学会参加費 | 63,24 |
| 公租・公課・保険料 | 306 | お元気でっCar購入時税金,任意保険 | 114,185 |
| 計 | 2,310 | | |
| ア ル バ イ ト 関 係 支 出 | | | |
| 人件費支出 (兼務職員) | | | 時給 〇〇円,年間時間数 〇〇時間 実人数 〇〇人 |
| 教育研究経費支出 | | | |
| 計 | 0 | | |
| 設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの) | | | |
| 教育研究用機器備品 | 707 | 電動自転車,医療機器取付費 | 129,577 |
| 図 書 | | | |
| 計 | 707 | | |
| 研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出 | | | |
| リサーチ・アシスタント | | | 学内〇人,学外〇人,外国〇人 |
| ポスト・ドクター | | | 学内〇人,学外〇人,外国〇人,学振〇人 |
| 研究支援推進経費 | | | 学内〇人,学外〇人,外国〇人 |
| 計 | 0 | | 学内〇人,学外〇人,外国〇人,学振〇人 |

| | |
|------|--------|
| 法人番号 | 281031 |
|------|--------|

18 研究費の支出状況

(千円)

| 年 度 | 平成 26 年度 | | | |
|-----------------------------------|----------|-----------------------|---------|--------------------------------|
| 小 科 目 | 支 出 額 | 積 算 内 訳 | | |
| | | 主 な 使 途 | 金 額 | 主 な 内 容 |
| 教 育 研 究 経 費 支 出 | | | | |
| 消 耗 品 費 | 1,167 | 健康フェア,阪神淡路大震災の集い | 154,311 | 健康フェアのブースで本研究の実践を行うため |
| 光 熱 水 費 | | | | |
| 通 信 運 搬 費 | 4 | 郵便送付料 | 4 | 郵便送付料 |
| 印 刷 製 本 費 | 469 | 健康フェアチラシ,新聞広告 | 226,243 | 健康フェアのブースで本研究の実践を行うため |
| 旅 費 交 通 費 | 371 | POCTシンポジウム,兵庫県健康福祉まつり | 246,4 | シンポジウム参加のための旅費サンディエゴ,祭りで本研究の実施 |
| 報 酬・委 託 料 | 160 | レンタル代,学会参加費 | 151,8 | 大型プロジェクト,トランシーバーレンタル,学会参加費 |
| 公 租・公 課・保 険 料 | 156 | お元気でっCar任意保険 | 139 | 健康機器動産保険,車の任意保険 |
| 計 | 2,327 | | | |
| ア ル バ イ ト 関 係 支 出 | | | | |
| 人 件 費 支 出 (兼 務 職 員) | | | | 時給 ○○円,年間時間数 ○○時間 実人数 ○○人 |
| 教 育 研 究 経 費 支 出 計 | 0 | | | |
| 設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの) | | | | |
| 教 育 研 究 用 機 器 備 品 図 書 | 675 | 健康モニタリング装置,PC | 581,93 | 健康モニタリング装置,ノートパソコン |
| 計 | 675 | | | |
| 研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出 | | | | |
| リサーチ・アシスタント | | | | 学内○人,学外○人,外国○人 |
| ポスト・ドクター | | | | 学内○人,学外○人,外国○人,学振○人 |
| 研究支援推進経費 | | | | 学内○人,学外○人,外国○人 |
| 計 | 0 | | | 学内○人,学外○人,外国○人,学振○人 |

18 研究費の支出状況

(千円)


| 年 度 | 平成 27 年度 | | | |
|-----------------------------------|----------|------------------|---------|------------------------------|
| 小 科 目 | 支 出 額 | 積 算 内 訳 | | |
| | | 主 な 使 途 | 金 額 | 主 な 内 容 |
| 教 育 研 究 経 費 支 出 | | | | |
| 消 耗 品 費 | 1,503 | 健康チェック機器,試薬等 | 662,422 | アネロイド血圧計,皮下脂肪測定器,ピペッター他 |
| 光 熱 水 費 | | | | |
| 通 信 運 搬 費 | | | | |
| 印 刷 製 本 費 | 200 | 論文別吊り,健康フェアプログラム | 32,138 | 論文別吊り代,健康フェアのブースで本研究の実践を行うため |
| 旅 費 交 通 費 | 365 | 学会参加,シンポジウム参加 | 184,178 | 在宅ケア学会,医療学会,災害看護学会,POCTシンポ |
| 報 酬・委 託 料 | 604 | テーブル起こし,健康フェアチラシ | 168,299 | |
| 公 租・公 課・保 険 料 | 139 | お元気でっCar任意保険 | 26 | 健康機器動産保険,車の任意保険H27年度分 |
| 計 | 2,811 | | | |
| ア ル バ イ ト 関 係 支 出 | | | | |
| 人 件 費 支 出 (兼 務 職 員) | | | | 時給 ○○円,年間時間数 ○○時間 実人数 ○○人 |
| 教 育 研 究 経 費 支 出 計 | 0 | | | |
| 設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの) | | | | |
| 教 育 研 究 用 機 器 備 品 図 書 | 302 | 胎児ドップラーエリート | 302 | 胎児ドップラーエリート1台 |
| | 14 | 在宅ケア学(全6巻) | 14 | 在宅ケア学(全6巻) |
| 計 | 316 | | | |
| 研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出 | | | | |
| リサーチ・アシスタント | | | | 学内○人,学外○人,外国○人 |
| ポスト・ドクター | | | | 学内○人,学外○人,外国○人,学振○人 |
| 研究支援推進経費 | | | | 学内○人,学外○人,外国○人 |
| 計 | 0 | | | 学内○人,学外○人,外国○人,学振○人 |

監査報告書


平成 28 年 3 月 22 日

学校法人 玉田学園
理 事 長 御中

監査員
学校法人 玉田学園
法人本部 本部長

中村 忠司 

学校法人 玉田学園
法人本部 財務課長

沼田 実 

われわれは、神戸常盤大学公的研究費管理・監査規程（平成 27 年 1 月 1 日施行）に基づき、学校法人玉田学園神戸常盤大学の戦略的研究基盤形成支援事業の平成 25 年度～平成 27 年度（平成 25 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで）の会計帳簿について監査を行い、以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法の概要

私たちは監査を実施するにあたり、「神戸常盤大学公的研究費の運営及び管理並びに不正使用の防止等に関する監査規程」（平成 27 年 1 月 1 日施行）に準拠しました。私たちは随時研究代表者等から業務の執行の報告を聴取し決裁書類等を閲覧し業務及び財産の状況を調査しました。

2. 監査の結果

- (1) 会計帳簿は、適法かつ正確に本事業の収支状況及び財政状況を示していると認めます。
- (2) 学校法人の業務または財産に関し、不正の行為または法令に違反する事実は認められません。

以 上